

追悼

松本秋さんを悼む

事務局長として学会の基礎を固め発展させるのに多大の貢献をされた松本秋さんが、8月24日に肺癌のため永眠されました。謹んで会員の皆様にお知らせするとともに、心から哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

学会が松本さんに事務局をお願いした経緯は、関先生が詳しく書いておられますが、当時の熱測定研究会のニューズレターによれば、1969年11月21日に熱測定研究会の第一回設立総会が開かれ、ついで同年12月12日の第一回幹事会において事務局をお願いすることが決められ、庶務および会計幹事補佐を委嘱されたと書かれています。以来、事務局が現在のリアライズ社に移る1987年まで18年間にわたり事務局を取り仕切ってこられました。松本さんは研究会設立の準備から事務いっさいを扱われ、事務の面から学会の状況を把握されておられ、事務局長としての役割を果たしてこられました。なかでも1977年夏京都で開催された第五回国際熱分析会議は松本さんがおられて初めて可能であったと考えられます。冗費を削り、必要な経費を十分手当てし、募金の窓口であった日本学術振興会との折衝にあたり、さらには開催場所であった京都国際会館との交渉を担当されるなど、今でもそのご苦労がありありと思ひ浮かびます。科学技術社の社長として実務に精通されておられたから初めて可能であった采配ぶりでありました。この国際会議の開催は、松本さんにとっても事務局長としてやり甲斐のある仕事であり、よき思い出となったことと推察しております。

学会の通常の運営においても、松本事務局長の存在はきわめて大きいものでありました。たとえば、会誌の印刷依頼先を十分吟味されましたので、執筆者の校正の手間はほとんどいらず、仕上がりが大変良質なものでした。講習会案内の送付も反響の大きい業界を中心に二度目の案内状発送を行うなど、少数でも有効な広報がなされましたので、当学会の講習会を広く周知させ、学会の財政を支え、ワークショップなどの活動を活発にすることができました。また、会員の一人一人を熟知されるなど、学会の状況を正確



に把握されていまして、事務局長の立場から適切な助言をされました。今日の学会の盛況はこのような松本さんの高い能力、経験、見識と熱意によるところが大きいと認識しております。真贋を見分ける鋭い眼力をもっておられ、独自の観点から直言を憚らず、しかも裏方に徹しておられました。関先生もこのことを書いておられますが、多くの人が等しく感じておられたことでした。

8月15日に学会を代表して川崎のホスピスに花束をもってお見舞いにまいりました。すでに死を覚悟されているご様子でしたが、気力の衰えは感じられませんでしたので、まだまだ一日一日を大切に残された日々を過ごされるものと思いましたが、肉体の衰えはいかんともしがたく、帰らぬ人となりました。日本熱測定学会を守り育て、ますます発展させることが、松本さんへのなによりの供養と信じます。

合掌

(前 日本熱測定学会会長、ダイセル化学工業 小沢丈夫)